

まちかど

アルバム



万葉時代にタイムスリップ

因幡万葉歴史館ほか

おおとものやかもち

大伴家持が万葉集最後の歌を詠んでから 1250 年となるのを記念して、10 月 17 (土)、18 (日) に「全国万葉フェスティバル in 鳥取」が開催されました。17 日のオープニングパレードには、きらびやかな万葉衣装に身を包んだ約 100 人の市民らが参加。因幡万葉歴史館から大伴家持歌碑を経て因幡国庁跡までの道のりを、往復 1 時間かけて歩きました。参加者が、国庁跡で万葉集最後の歌「新しき 年の始めの初春の 今日降る雪の いや重け^し古事^{よこと}」を朗唱すると、辺りは万葉時代にタイムスリップしたかのようでした。

勝ったのは誰？～三輪車レース～

青谷町農林漁業者トレーニングセンター

10 月 31 日 (土)、11 月 1 日 (日)、恒例の「青谷ようこそまつり」が開催され、会場の青谷町農林漁業者トレーニングセンターは多くの来場者でにぎわいました。31 日に行われた「三輪車レース」では、会場に設けられた特設コースで、地元の小学生が「F1」さながらのレースを展開。小さな三輪車を一生懸命こいで、ゴールをめざしました。優勝者には県産の新米と牛肉が贈られ、子どもよりお母様の方が喜ばれたとか…。



気分はお店屋さん

福部保育園

10 月 20 日 (火)、福部保育園で開催された公開保育で、園児が「お店屋さんごっこ」を行いました。事前に鳥取駅前商店街でさまざまなお店を見学した園児たちは、どのような商品を販売するかをみんな考えて、色紙を使って本物そっくりのお菓子や楽しいおもちゃを作りました。4、5 歳児がエプロンを着けて店員になり、いよいよ開店。3 歳以下の園児が「お客さん」として訪れ、手作りの商品をうれしそうに買っていました。

白熱のラリーが続く

用瀬中学校

11 月 1 日 (日)、恒例の「用瀬町民バレーボール大会」(鳥取市体育協会用瀬支部主催)が、用瀬中学校の体育館で行われました。これは、スポーツを通じて健康の増進を図るとともに、住民同士の交流を深めてもらおうと毎年開催されているものです。各集落を代表して出場した選手たちのハッスルプレーに、観客も大盛り上がり。打っては拾い、拾っては打つ、白熱した試合が繰り広げられました。



生のオーケストラに感動

西郷小学校

10月29日(木)、文化庁の進める「本物の舞台芸術体験事業」として、広島交響楽団が西郷小学校を訪問。チャイコフスキーの「くるみ割り人形」など、なじみのある曲を中心に、60人のフルオーケストラが迫力ある演奏を披露しました。演奏の合間には、児童2人が指揮者を体験。指揮棒どおり速くなったり遅くなったりの演奏に、会場からは笑い声が起こっていました。最後は、オーケストラの伴奏で校歌を斉唱するなど、子どもたちにとって貴重な体験となったようです。



夜の城下町を^{こむそう}虚無僧が練り歩く

鹿野町

10月24日(土)、鹿野町の旧城下町地区で「^{あんぎゃ}虚無僧行脚」が開催され、写真家をはじめ多くの観光客らでにぎわいました。これは、「鹿野わったいな祭」の同時開催イベントとして「いんしゅう鹿野まちづくり協議会」が開催したもので、全国各地から31人の尺八愛好家が集結。夜の城下町は古い街なみとかがり火、ちょうちんの明かりなどで幻想的な空間となり、尺八の音色が辺りを包み込みました。



お願い！まっすぐ進んで

気高町中央公民館

10月31日(土)、気高町中央公民館前の広場で「ボランティアフェスティバル」が開催されました。数あるイベントの中でも子どもに人気だったのが、ブルーシートと角材で作ったコースで、地元河内川(こうち)のズガニ(正式名モクズガニ)を走らせる恒例の「ズガニレース」。子どもたちは、バケツに入ったたくさんのカニの中から元気な一匹を選び、竹でトントンと追い立てるものの、なかなか進まずに四苦八苦していました。

鳥取藩伝統のイモコン

JA 鳥取いなば本店駐車場

10月31日(土)と11月1日(日)、恒例の「とっとり自然のめぐみ感謝祭」が開催されました。地元の農林水産物や加工品などが販売されたほか、郷土芸能の披露



や「お楽しみ抽選会」なども行われ、大勢の人でにぎわいました。なかでも、里イモとこんにゃく、長ネギなどを大鍋で煮て、しょうゆで味付けした鳥取藩伝統のイモコンは大人気で、用意された500人分の大鍋は、両日とも1時間足らずで完売していました。鍋の売上金39,900円は、ユニセフへ全額寄付されたそうです。

砂丘で愛のメッセージ

鳥取砂丘



10月25日(日)、広い砂丘で、恋人や夫、妻に大声で愛を伝えるイベント「鳥取砂丘の中心で愛を叫ぶ」(鳥取市東商工会主催)が開催されました。鳥取砂丘を愛のメッカにしようと開催されたこのイベントには、市内外から12組が参加。一方が、砂丘「馬の背」から下にいるパートナーに、日ごろの感謝や

プロポーズの言葉を大声で叫びました。参加者には、記念として鳥取砂丘の砂を使った「愛の告白証明書」が贈られました。よい記念になりましたね。